



生活を切り拓く児童生徒の育成を目指して —「思考力、判断力、表現力」を引き出す授業作り—



研究紀要(第 21 集)の発刊にあたって

佐賀大学教育学部附属特別支援学校
校長 前田 修之

第 17 期(令和 4～6 年度)研究における研究紀要(第 21 集)の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

昭和 53 年 4 月に佐賀大学教育学部附属養護学校として設立された本校は、学部改編などを経て平成 28 年 4 月から現在の佐賀大学教育学部附属特別支援学校となりました。同時に校内の体制も副校長職を廃止し、専任校長を置きました。時代と共に変化する体制ではありますが、教育研究が本校の大きな使命であることに変わりはありません。国立大学附属学校の在り方が問われる今こそ先進的な教育実践を踏まえた研究に力を注ぎたいと思っています。

さて、第 17 期となった本校の教育研究ですが、テーマを「生活を切り拓く児童生徒の育成を目指して～『思考力、判断力、表現力』を引き出す授業作り～」としました。これは、前期である第 16 期の研究を経て職員の意識調査から浮かび上がった課題、「思考・判断・表現の評価の充実をどう図るか」「児童生徒の現在・将来の生活をどのように豊かなものにするのか」という視点で設定されています。研究 1 年次は、本校の課題の洗い出しと整理に取り組みました。2 年次となる前年度は、各教科の「思考力、判断力、表現力等」の目標達成が、【伸ばしたい児童生徒の「思考力、判断力、表現力」】の育成にどうつながるか、すなわち単元の中で育成された力が生活の中でどう活かされるかまで踏み込んだ授業作りの研究を、学部縦割りのグループで行いました。いよいよ最終年度となった今年度は、これらを踏まえた各学部の授業作りとなります。

本日、第 21 回研究発表会では、3 年間の研究成果を発表させていただきます。全国各地からご参会いただきました先生方、関係者の皆さまには、ご意見やご感想、ご指導をいただければ幸いに存じます。

結びに、本研究に際しご支援いただきました佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会、佐賀県特別支援教育研究会各位にこの場を借りてお礼申し上げます。

さらに、講演をいただきます独立行政法人国立特別支援教育総合研究所情報・支援部上席総括研究員 丹野哲也先生をはじめ指導助言の先生方、佐賀大学教育学部の先生方、日ごろから本校の教育実践にご指導を賜っている関係機関の方々、またご理解とご協力をいただいている保護者の皆さまにも心から感謝申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。

目 次

研究紀要（第21集）の発刊にあたって

第1章	研究の計画	1
1	研究テーマ	
2	テーマ設定の理由	
3	研究目的	
4	研究内容	
5	研究方法	
6	研究計画	
第2章	研究の実際	
第1節	「思考力、判断力、表現力」の育成に関する課題の整理	5
1	令和3年度単元計画の「思考、判断、表現」の評価の分析	
2	課題の整理	
第2節	「思考力、判断力、表現力」を引き出す授業及び 指導・支援の在り方の検討	21
1	教師の意識調査の分析と生活を切り拓く「思考力、判断力、表現力」の検討	
2	目標設定及び学習評価についての検討	
3	知的障害特別支援学校各教科の「思考力、判断力、表現力等」との関連の考察	
4	「思考力、判断力、表現力」を育成する教師の支援の在り方の検討 (グループ別研究)	
5	佐大附特版「思考力、判断力、表現力」を引き出す授業作りのポイントの整理	

第3節 「思考力、判断力、表現力」の育成に着目した授業実践・・・・・・・・・・83

- 1 【1年次学部別授業研究】
「思考力、判断力、表現力」の育成に関する課題の整理を踏まえた授業研究
- 2 【2年次グループ別授業研究】
「思考力、判断力、表現力」を育成する教師の指導・支援の検討を踏まえた授業研究
- 3 【3年次学部別授業研究】
佐大附特版「思考力、判断力、表現力」を引き出す授業作りのポイントを踏まえた授業研究

第3章 研究のまとめ及び成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・143

- 1 「思考力、判断力、表現力」の育成に関する課題の整理について
- 2 「思考力、判断力、表現力」を引き出す授業及び指導・支援について
- 3 「思考力、判断力、表現力」の育成に着目した授業実践について
- 4 今期研究の成果と課題

研究同人

第1章

研究の計画

1 研究テーマ

生活を切り拓く児童生徒の育成を目指して
ー「思考力、判断力、表現力」を引き出す授業作りー

2 テーマ設定の理由

本校では「教育実践の成果は、児童生徒の学校生活後の生活の在りように表れる」という思いのもと、児童生徒の実態や特性に応じ、また社会情勢や教育施策を踏まえ、よりよい教育支援の在り方を求め、これまで16期約50年間にわたって、実践研究に取り組んできた。

近年は、平成29年からの学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、カリキュラム・マネジメントを研究の中心に据え、第15期研究では、「児童生徒の確かな学びをつなぐカリキュラム・マネジメントの確立をめざしてー明日の授業につながる附特システムの構築ー」、第16期研究では「児童生徒の確かな学びをつなぐカリキュラム・マネジメントの確立をめざしてⅡー『佐大附特システム』の改善と授業実践を通してー」とテーマを設定して研究に取り組んできた。

第15期研究においては、本校におけるカリキュラム・マネジメントの捉えを整理し、実際に推進していくための「佐大附特システム」の構築に取り組んだ。第16期研究においては、学習指導要領に示された各教科の目標と内容を基に、各教科の見方・考え方や系統性の理解及び児童生徒の学びの履歴の把握を目的として、「学習内容表」を作成した。このことにより、児童生徒一人一人の学びの履歴を踏まえた「個別の指導計画」における目標設定、学ぶべき各教科等の指導内容を踏まえた年間指導計画、単元計画の作成を行うようになり、各教科等の確かな学びを実現するための計画から評価までをつなぐサイクルができた。

この2期の研究を通して、1時間1時間の授業及びそのまとまりとしての単元の中で、児童生徒の確かな学びを実現する方向性が意識されるようになり、次の単元や他の授業、次の学年や次の学部へとつなげていくシステムを構築するという成果を得ることができた。

一方で、「教師がより適切な目標設定と評価ができるように、育成を目指す資質・能力の3つの柱及び評価の3観点について更に理解を深めるとともに、目標設定や評価規準の在り方を検討していかなければならない」「各教科の内容の確実な習得を図ることを重視しながらも、身に付けた力を生活で発揮しながら自分らしく生きる児童生徒の育成を目指す授業作りを更に追究していかなければならない」などの課題が挙げられた。

課題の1点目「適切な目標設定と評価の在り方」に関しては、単元計画の評価において「思考・判断・表現」の評価が難しいという本校職員の声が多く上がっていた。知的障害のある児童生徒にとっての「思考力、判断力、表現力」に関して、教師が具体的なイメージを十分に描けていない現状が挙げられた。そして、各教師が「思考力、判断力、表現力」の捉え方を整理しないまま授業を実施しているため、これらの力を育成するための手立てを十分に講じていけないという、教育実践上・学習指導上の課題にもつながっていると考えた。また、児童生徒のどの

ような行動や姿をもって、「思考力、判断力、表現力」が育成されたと判断するのか、評価規準についてもさらに検討を深めなければならないことを確認した。

2点目の課題「自分らしく生きる児童生徒の育成を目指す授業作り」に関しては、これまでの研究で各教科の内容の児童生徒の習得状況に基づく教育計画がなされるようになった一方で、「児童生徒の現在及び将来の生活をどのように豊かなものにするか」という視点が弱いという課題が上がっていた。これまで本校でも、学校目標の「児童生徒の現在及び将来の身近生活・社会生活・職業生活における適応能力を育成する」を達成するべく、身に付けた基礎的な「知識及び技能」を現在及び将来の生活に活かしながら、児童生徒が自分らしく自立と社会参加を果たしていくことを目指して指導・支援を行ってきた。今期研究においては、「適応する力」から更に一步進め「自らを生活の主体として、生活を切り拓いていく児童生徒」を育てていかなければならないと考えた。そのためには、児童生徒が生活上の様々な事柄について捉えたことを基に考えた上で、自分なりに選択したり、決定したりする力を育むことが必要となってくる。また、児童生徒が創り手となる豊かな生活は、自分の思いをもち、それを表現するところから始まる。つまり、児童生徒が自らを生活の主体として生活を切り拓いていくためには、「思考力、判断力、表現力」の育成が不可欠であると考えた。この2点の課題を受けて、今期研究では育成を目指す資質・能力の3つの柱のうち、特に「思考力、判断力、表現力」に焦点を当てて、研究を進めていくこととした。研究を進めるにあたっては、まず、「思考力、判断力、表現力」の育成に関する本校の課題について、整理することから始めることとした。その上で、知的障害のある児童生徒にとって「思考力、判断力、表現力」とはどのような力なのかについて教師間の共通理解を深め、児童生徒一人一人に育みたい「思考力、判断力、表現力」について検討していきたい。また、そのような検討を踏まえた上で、単元目標や個人目標を設定し、評価規準に基づく評価や、授業改善を行ってきたい。児童生徒の「思考力、判断力、表現力」を育成するための教師の指導・支援の在り方については、授業研究を中心に検討を深めていく。これまでも本校では、一人一人の実態に応じた「できる状況作り」について研究を進め、適切な手立てを準備し児童生徒の主体的な活動を引き出すという実践を積んできた。これを土台として今期研究では、児童生徒の「思考力、判断力、表現力」を引き出す授業作りに焦点を当てて研究を進めていく。まずは、児童生徒が授業における主体であるという原点に立ち返り、「児童生徒の心の動き」を大切にし、児童生徒がより深く考え、自信をもって判断し、意欲的に表現するために、教師はどのように指導・支援していくべきかについて考えていきたい。以上のことから、今期研究のテーマを「生活を切り拓く児童生徒の育成を目指して－『思考力、判断力、表現力』を引き出す授業作り－」と設定した。

3 研究目的

現在及び将来の生活に関心を向け、自ら考え、自分らしくよりよく生きていこうとする「生活を切り拓く児童生徒」を育むために、適切な「実態把握と目標設定－授業実践－評価」のサイクルの中で、児童生徒の多様な「思考力、判断力、表現力」を十分に引き出し、一人一人が主役となる授業作りの在り方を探る。

4 研究内容

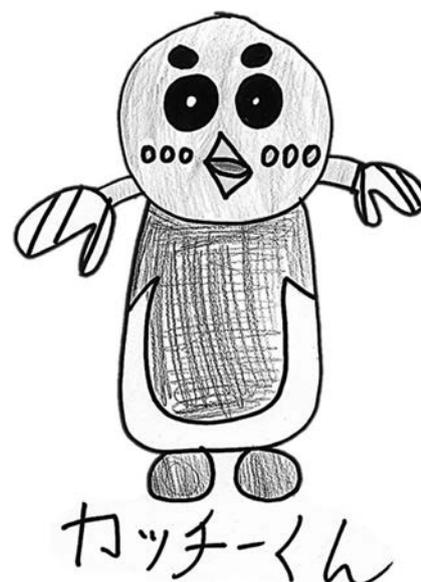
- (1) 「思考力、判断力、表現力」の育成に関する課題の整理
- (2) 「思考力、判断力、表現力」を引き出す授業及び指導・支援の在り方の検討
- (3) 「思考力、判断力、表現力」の育成に焦点を当てた授業実践

5 研究方法

- (1) 「思考力、判断力、表現力」の育成に関する課題の整理
 - ア 令和3年度単元計画の「思考・判断・表現」の評価を分析する。
 - イ 「思考力、判断力、表現力」の育成に関する課題を整理する。
- (2) 「思考力、判断力、表現力」を引き出す授業及び指導・支援の在り方の検討
 - ア 教師の意識調査を基に、生活を切り拓く「思考力、判断力、表現力」の検討を行う。
 - イ 「思考力、判断力、表現力」の目標設定と学習評価の検討を行う。
 - ウ 知的障害特別支援学校各教科の「思考力、判断力、表現力等」との関連を考察する。
 - エ 「思考力、判断力、表現力」を育成する教師の指導・支援の在り方を検討する。
 - オ 「思考力、判断力、表現力」を引き出す授業作りのポイントを整理する。
- (3) 「思考力、判断力、表現力」の育成に焦点を当てた授業実践
 - ア 「思考力、判断力、表現力」の育成に関する課題を踏まえた授業研究を行う。
 - イ 「思考力、判断力、表現力」を育成する教師の指導・支援の検討を踏まえた授業研究を行う。
 - ウ 「思考力、判断力、表現力」を引き出す授業作りのポイントを踏まえた授業研究を行う。

6 研究計画

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
4月	研究計画	文献研究・理論研究等	「思考力・判断力・表現力」
5月	↓	グループでの検討を	↓を引き出す授業づくり検討
6月	↓	踏まえた研究授業を	授業研究
7月	課題の整理	年間通して実施する	↓
8月	(高等部県特研発表)	(中学部九附連発表)	
9月	↓		
10月	授業研究		
11月	(高等部九特研発表)		研究紀要作成
12月	↓		
1月	R4年度公開授業研究会	↓	↓
2月		R5年度公開授業研究会	第21回 研究発表会
3月	1年次研究のまとめ	2年次研究のまとめ	第17期研究のまとめ



カッチーくん

佐賀大学公式キャラクター